

感染対策変更のお知らせ



発熱外来や面会制限などの運用を一部見直しました。館内ではひきつづきマスクの着用や手指衛生など基本的な感染対策は継続します。ご協力をお願いいたします。

発熱外来 (発熱・カゼ症状の患者さま)

- 6月より亀田クリニック内で診察します。
予約センター(04-7099-1111)で
当日予約をお取りの上、ご来院ください。

	0～15歳	16歳以上
場 所	2階 小児科外来	2階 総合内科外来
日 時	月～金曜日の午前中	

※また、発熱・カゼ症状以外の目的で受診された方も、受診前に発熱やカゼ症状があった場合は、ブロック受付でスタッフまでお申し出ください。

陽性者・濃厚接触者の受診

- 新型コロナウイルス陽性が判明した方は、発症から10日間は急を要さない受診はお控えください。
予約がある場合、おくなりになりそうな場合は予約センターへお電話ください。
- 同居家族に陽性者がいても、症状のない方(いわゆる濃厚接触者)は、しっかりマスクを着けられる状況であれば受診は問題ありません。マスクの着用がむずかしい場合はご相談ください。

面会

- ご家族が面会できるよう、Kタワーも含め1日1回、14:00～18:00の間に30分以内の面会を再開しました。
(1度に入室できる人数は3人まで)
- 面会を希望される場合はKタワー1階インフォメーションへお立ち寄りください。



おとうさん・おかあさんの病気を学ぶ かめだキッズ探検隊



今や日本人の2人に1人が罹患する「がん」。このうちAYA世代と呼ばれる10代後半から30代では年間2万人ががんの診断を受けており、その90%以上は20歳以上の方です。晩婚化や出産年齢の高齢化により、子育てをしながら治療に取り組む患者さまも少なくなく、そのお子さまへの心理的・社会的支援や病気の教育の必要度が近年高まっています。

そこで、かめだAYAサポートチームでは、親ががんになった幼稚園年長～小学6年生までのお子さまを対象に、8月5日(土)午後、「かめだキッズ探検隊」をオンライン開催します。がんとその治療について正しい知識を得るとともに、病室など病院内部の様子を画面越しにバーチャル見学することで、入院生活や治療について理解を深めてもらう内容です。

ご参加いただくためには、お子さまが親の病名や治療の説明を受けていることや、顔出しでのWeb参加ができることなど、いくつか要件があります。詳細をQRコードからご確認の上、6月30日(金)までにお申込みください。(募集定員:8名、参加費無料)



新型コロナワクチン追加接種 WEBにて予約受付中



65歳以上の方などを対象に、新型コロナワクチン追加接種(2023年春開始接種)を6月23日(金)から4週連続で金曜日の午後、亀田クリニックにて実施いたします。(接種費用は無料)

ワクチン準備の都合上、接種は完全予約制です。接種を希望される方はホームページからお申込みください。

※電話での予約対応はいたしません。



bayfm「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。


6月は歯科の三浦雅明歯科医師が「障がい者歯科」をテーマにお話しします。ぜひお聴きください。



第11話 腹膜透析

皆様こんにちは。腹膜透析外来を担当している看護師の渡邊結花です。

「腎臓の機能が悪いので治療が必要」と聞くと、多くの方が血液透析を思い浮かべることでしょう。でも、腎機能障害の治療法には、血液透析だけでなく、腹膜透析や腎移植もあります。

血液透析と腹膜透析はいずれも腎臓の働きの一部を補う腎代替療法ですが、透析を行う場所や頻度、体への負担など、異なる点があります。第8話で血液透析を紹介したので、今回は透析治療の一つである腹膜透析についてお話したいと思います。 [8話はここから](#) → 

腹膜透析とは？

患者さまのお腹の中に管(カテーテル)を通し、その管から透析液を入れ、一定の時間を置くことで、腹膜^{*1}をフィルター代わりにして、血液をきれいにする治療法です。

腹膜透析は毎日行う透析で、1日に3～4回、透析

液の交換をする方法(CAPD)と、夜間に機械を使って自動で行う方法(APD)があります。個々の生活に合わせてスケジュールを組みます。

《メリット》

- ・在宅治療のため頻回な通院や治療で長時間ベッドで拘束されることがない。透析液の交換時間を調整できるため、仕事と生活が両立しやすい
- ・残っている腎臓の機能が長く保たれやすい
- ・食事制限は血液透析と比較すると緩やか
- ・身体的負担が少なく、小児や高齢者に適している
- ・透析後の不快感(腹痛・吐き気・嘔吐など)がない

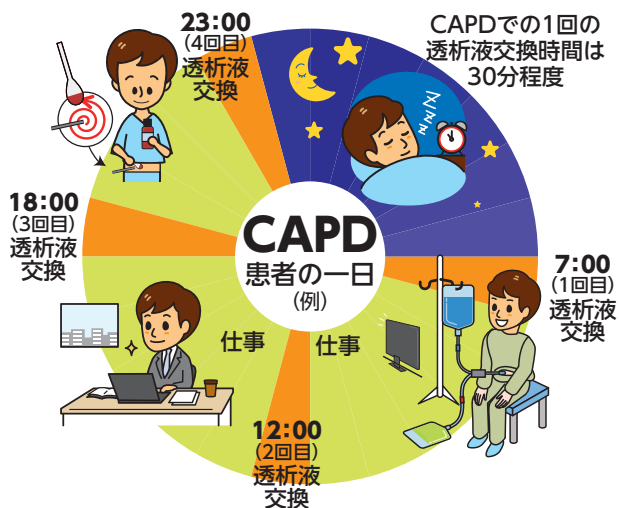
《デメリット》

- ・カテーテルに関連した感染を起こすことがある
- ・腹膜透析による水分や老廃物の除去には個人差がある
- ・生体膜をフィルターとするため、長期に行うことで被^{ひのう}囊性腹膜硬化症^{*2}を起こすことがあり、状態に応じて血液透析との併用や移行が必要になる
- ・本人や家族が行う在宅治療であるため、感染症等の合併症を起こさないよう自己管理が重要となる

まとめ

腹膜透析は血液透析と比べると日常生活の制限が少なく、社会生活を継続しやすい治療法です。しかし、在宅治療であるため、本人・家族の管理が重要となります。また、腹膜機能の低下や合併症により腹膜透析が継続困難となることもあります。

治療法の選択にあたっては、担当医や主治医と十分に相談することが大切です。



※1: 肝臓、胃、腸などの内臓表面や腹壁の内面を覆っている膜のこと。

※2: 腹膜全体が厚くなり、腸が動かなくなる病気。進行すると腸が癒着し、腸閉塞になることがある。腹膜透析の合併症の中でもっとも重篤なものひとつ。

医師紹介

むらやま ようこ
村山 陽子 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①耳鼻咽喉・頭頸部外科
- ②頭頸部腫瘍、鼻科学
- ③炊飯器調理、映画鑑賞
- ④丁寧な診療を心がけ、適切な医療を提供できるよう励んでおります。お気軽にお話ください。



Kameda Medical Center